

編集後記

平成 15 年 6 月 14 日から 7 月 14 日まで、毎週土曜日の午後 1 時から名古屋大学東山キャンパスの情報科学研究科棟において、「都市と言語文化」というテーマで国際言語文化研究科主催の公開講座がありました。

委員長の吉村先生をはじめとする 10 名の有志による公開講座では、アメリカ、ヨーロッパ、ロシア、東アジアの代表的な都市と言語文化の関係が取り上げられ、思想と都市、映像・芸術と都市、文学と都市、歴史と都市という 4 つの視点から、以下のような題目で興味深い講義が行なわれました。

- 1 19 世紀末ウィーンの建築と芸術（西川智之）
- 2 台北・台湾ニューウェイヴを中心に（星野幸代）
- 3 ヒエログリフとプラトン・アカデミー（鈴木繁夫）
- 4 パリ：ロジエ通り周辺 人間かユダヤ人か（田所光男）
- 5 イギリス田園都市の社会史（吉村正和）
- 6 一都物語 19 世紀ロンドンにおける検閲システム（上原早苗）
- 7 上海と茅盾の苦闘（中井政喜）
- 8 ニューヨーク、グリニッチ・ヴィレッジを中心に（田野 勲）
- 9 ゲーテと歩く古代ローマ（有川貫太郎）
- 10 ジュネーヴとルソー（飯野和夫）

この公開講座をベースに、都市に関心のある他の教官にも参加いただき、今年も『言語文化研究叢書』第 3 号を発行することができました。目次を見ても分かるように、12 本の論文は古今東西の都市における言語文化の諸相を照射した力作ぞろいで、読者を大いに啓発してくれるはずです。

『言語文化研究叢書』には、国際言語文化研究科の情報公開の一環として、電子版 <<http://www.lang.nagoya-u.ac.jp/proj/sosho/sosho.html>> がウェブ上にあり、そこでは掲載論文を PDF ファイルで読むことができます。それぞれの執筆者には電子メールなどで忌憚のない御意見をお寄せいただければ幸いです。執筆者の一人である田所先生は編集作業の最後の詰めを手伝ってくださいました。この場を借りて謝意を表します。

2004 年 3 月 名古屋にて M. M.